

山陽特殊製鋼株式会社
2021年度第1四半期決算(電話カンファレンス)
質疑応答(要旨)

開催日 2021年7月30日(金)
出席者 取締役常務執行役員 高橋 幸三
執行役員経営企画部長 八並 敬之

Q. 2021年度業績予想において、O v a k o 決算期変更影響や鉄スクラップサーチャージのタイムラグといった一過性要因を除いた実力損益はどの程度か。

A. 2021年度経常利益予想105億円の中には、O v a k o 決算期変更影響として+18億円、鉄スクラップサーチャージのタイムラグとして、当社単独-47億円、O v a k o +10億円が含まれている。従って、これらを除いた経常利益は、125億円程度となる。ただ、今後、鉄スクラップ価格が前提55千円/トンよりさらに上昇すると、サーチャージのタイムラグがさらに大きくなるので、鉄スクラップ価格の動向には注意が必要である。

Q. O v a k o は、販売数量増が損益に与えるインパクトが大きいですが、その理由を教えてください。

A. O v a k o は、2次加工を行っている製品が多いこと、セールスユニットを自社で保有していることから、限界利益単価が高く、数量増効果が大きい。同時に、増産に伴う必要な増員対応を極力臨時工の採用にするなど、固定費のコントロールを図っていることが利益増に寄与していると考えている。

Q. スウェーデン政府やV o l v o 等の参加で、O v a k o はカーボンフリー水素プラントの建設に着手したとのことだが、水素による鋼片加熱の製品およびコストへの影響を教えてください。

A. O v a k o は、従前より既存のL P G の代わりに水素を用いた鋼片加熱テストを行い、製品の品質に影響を与えないことを確認している。また、スウェーデンのグリーンかつ廉価な電力を活用できるため、コストアップにならない。電力価格次第だが、コストメリットが出てくる可能性もある。

Q. 鉄スクラップの姫路地区H 2 市況は、現在50千円程度/トンなので、2021年7月以降の鉄スクラップ価格前提55千円/トンは、保守的にみていると考えてよいか。また、原油価格の前提は80\$/バレルだが、これも同様か。

A. 姫路地区H 2 は足元50千円/トンを若干こえる所。業績予想では、原燃料価格の上昇を見込み、現在の価格より高めの前提としている。

Q. O v a k o は決算期変更を行ったが、季節性要因によって、第2四半期、第3四半期の損益が悪化すると考えてよいか。

A. その通りである。第2四半期(7~9月)には夏季休暇が1か月程度、第3四半期(10~12月)にはクリスマス休暇が2週間程度あるので、販売数量が減少し、結果損益が悪化する。

Q. O v a k o の第1四半期(2021年1~6月)の営業利益を、1~3月、4~6月に分解して教えてください。

A. 2021年1~3月は27億円、4~6月は35億円である。

Q. 2021年度第1四半期の姫路地区の鉄スクラップ市況価格を教えてください。

A. 2021年4~6月の平均は約47千円/トンである。

Q. 当社単独では、サーチャージ非適用部分のコストアップを販売価格にどのように転嫁していく方針なのか。

A. 鉄スクラップサーチャージの非適用部分は2割程度であり、店売りが中心。2021年1月と6月に、それぞれ10千円/トンの値上げを打ち出した。今後、鉄スクラップ価格がさらに上昇すれば、再度価格を上げていくことになる。

また、合金鉄価格も上昇してきている。一部サーチャージを適用しているが、サーチャージ比率は鉄スクラップに比べると低いため、サーチャージ比率の拡大等について議論を開始している。

Q. 7月14日に、欧州委員会から国境炭素税(CBAM)やEU域内排出量取引制度(EU ETS)等に関する発表があった。EU ETSにおける排出枠の無償割当が2026年以降削減されていく中で、OvakoのCO₂排出量が少ないというアドバンテージがコストに出てくるのではないかとと思うが、見方を教えてほしい。また、Ovako製品は国境炭素税の対象か。

A. EU ETS改正によるコストアップの懸念は将来的にはあるが、元々OvakoのCO₂排出量は少ないため、影響は相対的に軽微であり、Ovakoの競争力を毀損することにはならないと考えている。また、国境炭素税の導入が同時に議論されており、導入された場合、Ovakoの製品は対象になると思われる。これらの仕組みの導入により、Ovakoに相対的に有利になる可能性もあると考えている。いずれにしても、これらの仕組みの詳細および動向について引き続き注視することが必要である。

Q. 2021年度第1四半期に比べて第2四半期の利益が大幅に減少する理由を教えてほしい。

A. 第2四半期の利益が第1四半期に比べて大幅に減少する理由は、Ovakoの決算期変更影響がなくなる上に夏季休暇により1か月程度生産を停止することや、当社単独でも夏季休止があることに加え、鉄スクラップや合金鉄価格の上昇に販売価格の改定が追いつかないことなどである。なお、鉄スクラップサーチャージのタイムラグは1Qから2Qにかけて10億円程度悪化するとみている。

Q. OvakoのCO₂排出量が2018年以降大きく減少している背景を教えてほしい。2020年に2015年比54%削減というのはかなりのレベルである。

A. 主にグリーン電力への切り替えによる。Ovakoの製造拠点が立地するスウェーデンやフィンランドは、グリーン電力(水力、風力など)の比率が高く、基本コストアップなしにグリーン電力に切り替えることができた。

Q. 欧州において、CO₂排出量が少ないOvako製品に対する顧客の需要は増えているのか。

A. カーボンニュートラルへの動きの中で、CO₂排出量が少ないOvako製品に対する需要は高まると考えており、事実お客様からも問い合わせが増えている。仮にご要望に応じて、CO₂フリーな鋼材を販売するとなれば、付加価値に見合う対価を含めてお客様との対話を深めていきたい。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。